

つながりが可能性開く

ふくしま産業賞 交流会
 ふくしま経済・産業・ものづくり賞

福島市の民報ビルで四日に開かれた福島民報社の第二回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)の交流会では受賞企業・団体の代表者が業種や地域の枠組みを超えた新たなつながりを育んだ。起業を支えた「恩師」との再会もあり、福島産の発展への熱い思いを抱いた来場者で埋まった会場は熱気に包まれた。

大野村農園(相馬) × おとぎの宿米屋(須賀川)

自慢の卵 宿で提供

金賞に輝いた相馬市の大野村農園が生産・販売している卵「相馬ミルキーエッグ」が特別賞となった須賀川市の米屋企業が営む

「地元のコメや魚のあら、大豆などをニワトリの餌とし、他にない卵を生産している」。受賞者スピーチで大野村農園代表の菊地将兵さん(三)が発した言葉に米屋企業社長の有馬裕寿さん(五)と妻で常務の有馬みゆきさん(五)は強いこだわりを感じた。



大野村農園代表の菊地さん(右)の思いを聞く米屋企業社長の有馬裕寿さん(左)と常務の有馬みゆきさん(中央)

おとぎの宿米屋は地場産を中心に安全・安心でおいしい食材にこだわっている。朝食や夕食のすき焼き、茶わん蒸しなどに主に会津産の卵を使っている。冬場は供給量が減り、県外産を仕入れ

ているという。社長の有馬さんは「生産者晴らしい出会いになった」と思いに込め、ぜひ使ってもらいたい」と賞格を示した。

(3) 2016年(平成28年)12月20日(火曜日) 福

金賞 大野村農園 (相馬)



家族とともにニワトリを世話する菊地代表

地元産飼料で良質な卵

相馬市郊外の田園地帯にあるビニールハウスで養鶏に取り組んでいる。生産された卵は「相馬ミルキーエッグ」として県内外に流通し、人気商品となっている。菊地将兵代表(三)は相馬市の小中学校を卒業し、仙台市の高校に進んだ。その後、全国各地の農家に住み込みで生活しながら農業を学んだ。古里に戻り就農を考えたとき、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が起きた。「こんなときだからこそ地元で農業をしたい」と決意を固めた。平成二十三年五月に帰郷し、野菜作りと養鶏を始めた。純国産鶏「岡崎おうはん」

福島民報2015.7.22. 鶏への餌やりを体験する参加者



相馬 親子8組が農業体験

相馬市石上の大野村農園で19日、鶏の飼育やトマト、ナスなどの収穫体験が行われ、同市の親子8組が自然と触れ合った。東日本大震災後に同農園をオープンした地元農家の菊地将兵さんが、食育の一環で農業を経験してもら

うと企画。親子8組が土のおいを感じながら、普段食べているものが育つ過程などを学んだ。飼育体験では、子どもたちが恐る恐る鶏に近づき、くちばしの先に餌をまいた。鳴き声や羽の音に驚かされながら、命の温かさに触れていた。

×モ 設 立—平成24年1月 住 所—相馬市大坪字前迫115
 代 表—菊地将兵 電話番号—090(7574)3114
 従業員数—4人